

《 島根県西部の定置網漁業 》

水産試験場では定置網の経営診断の一手法として、網の設置水深と設置統数から見た生産金額・乗組員数・乗組員一人当りの生産金額の標準値*を用い、島根県西部における大型定置網漁業の経営実態を検討しました。今月号ではその結果を紹介します。

島根県西部には大型定置網が 8 経営体あり、8~18 名で操業しています。乗組員の年齢は 10~70 歳代ですが、全体的には高齢化が進んでおり、平均年齢が 70 歳に近い経営体もあります。各経営体は水深 18~51m の海域に 1~2 ヲ統の定置網を設置しています(表 1)。平成 4~8 年の生産金額の平均は 2,260 万円~1 億 4,880 万円で、生産金額は横這いもしくは減少傾向にあります(図 1)。

表 1 経営体別の定置網設置状況および乗組員

経営体	A	B	C	D	E	F	G	H	
設置統数	1	1	1	2	2	2	2	2	
設置水深(尋)	沖側	19	21	34	17	19	27	27	30
	灘側	-	-	-	12	13	19	20	18
乗組員(人)	12	8	16	12	8	18	12	14	
年齢範囲(歳)		30-62		52-72		49-68	35-66	(10-60)	
(平均年齢)	(66)	(56)	(60)	(67)	-	(53)	(53)	(60)	

* 生産金額の標準値：身網設置水深(尋)の二乗×10(万円)

1 尋：1.515m

乗組員数の標準値：身網設置水深(尋)÷2.5(人)

乗組員 1 人当りの生産金額：生産金額の標準値÷操業人員の標準値

(岩田圭司：ていち第 89 号より)

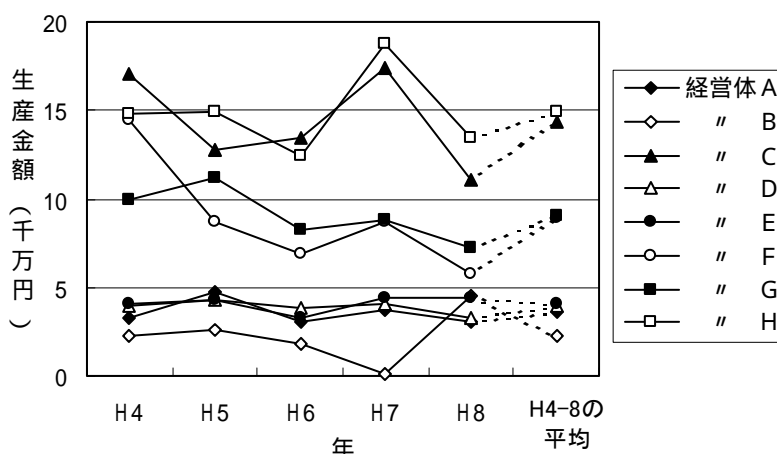


図 1 経営体別の生産金額の推移

各経営体が立てた平成 10 年の生産予定金額は 3,700 万円~2 億円で、生産金額の標準値*と比較すると、半数の経営体で標準値よりも低く、特に経営体(F、G)は標準値の 2~3 割低くなっています。その一方で、経営体(B、H)のように標準値の 1.5~1.6 倍の数値を生産予定金額に設定している経営体もあります。

計画後の各経営体の生産金額を見ると、ほとんどの経営体で生産予定金額を下回り、特に経営体(D、E)は生産予定金額を 5~6 割、標準値を 4~6 割下回っています。また、経営体(F)の場合、生産金額がほぼ生産予定金額に達しているようでも、標準値を 4 割

も下回っており、生産予定金額の見直しが必要と思われます。なお、経営体(C)は平成 11 年の操業率(水揚げ日数÷設置期間：標準値 70%)が 54%と前年の 63%から大きく減少しており、その影響で生産金額が低くなっています。

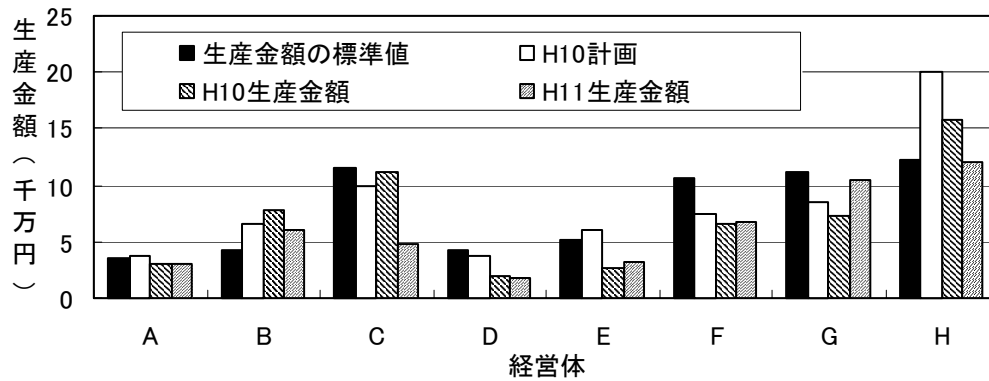


図2 経営体別の生産金額

各経営体の平成10年の事業計画によると経費全体の約40～60%を人件費が占めていますが、経営体(E、G、H)を除いては乗組員数の標準値*と同じかそれよりも多くなっています(図3)。

平成10、11年の乗組員一人当りの生産金額を見ると、乗組員一人当りの生産金額の標準値*を2カ年とも上回ったのは経営体(B、H)で、特に経営体(B)は標準値を4～8割上回っています。

経営体(E)の場合、生産金額が標準値を4～5割下回っていましたが、乗組員数を押さえているため乗組員一人当りの生産金額は標準値の2～3割減に留まっています。経営体(D、F)は水揚げの低迷に加え、乗組員数が標準値を上回っていることもあり乗組員一人当りの生産金額は標準値を5～7割下回っています。年間の生産金額または一人当たりの生産金額が常に標準値を2割下回る場合は注意が必要であり、4割下回る場合は抜本的な見直しが必要とされます(図4)。

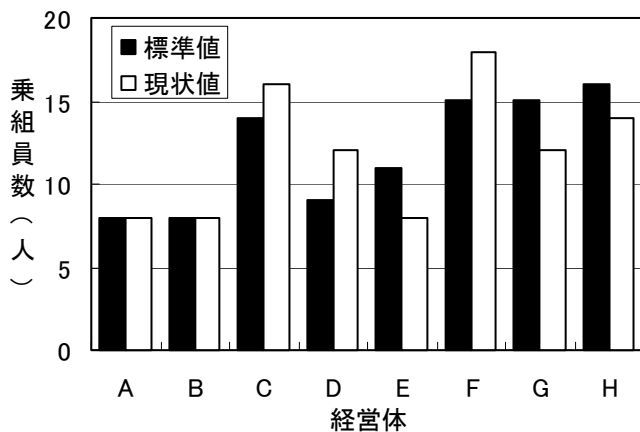


図3 経営体別の乗組員数

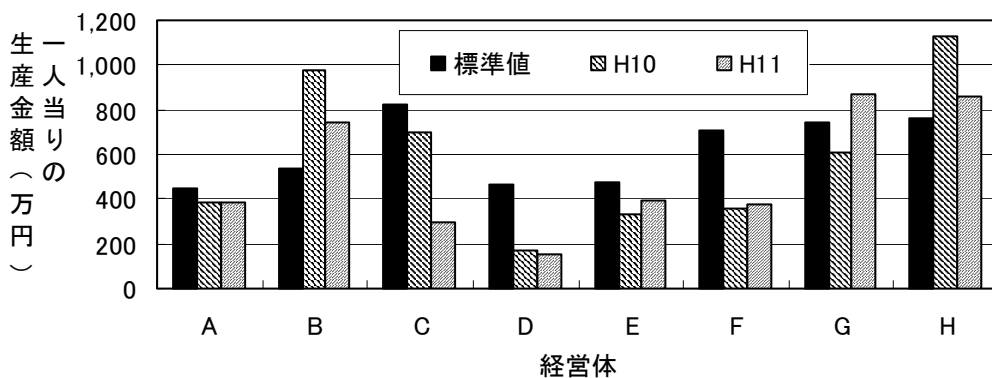


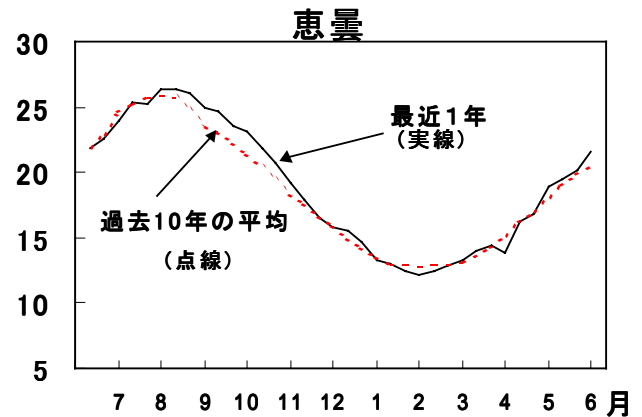
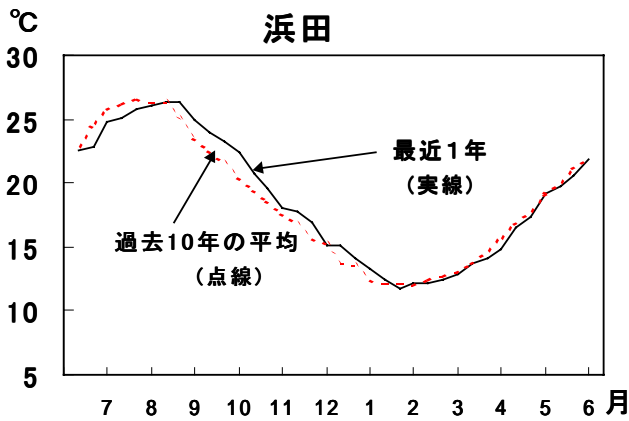
図4 経営体別の乗組員一人当りの生産金額

省人化を図り乗組員一人当りの生産金額を上げるための目安として、少ない経営体で1名、多い経営体では5～6名の乗組員の削減を検討する必要があります。省人化への取組みとしては「環締式等の揚網方法による省人化」、「片表層・片底建網操業」等があり、既に一部で導入されていますが、全体としては「魚の選別・網掃除・網替作業に人手が必要」、「乗組員が高齢化し人数を減らすと危険」、「休む人のことを考え余分に雇っている」などの理由で省人化が進んでいないのが現状のようです。また、水揚げ低下の要因については魚群の回遊など一過性のものか、漁具の設計管理等によるものかどうかの見極めが大切で、そのためには「魚種別の日別月別生産金額および網起こしと潮流記録との照合」と「側張清掃および網替え予定と実施記録との照合」などを検討することが重要です。

《 6月の海況 》

6月	月平均	平年差	評価
浜田	20.7	-0.3	平年並み
恵曇	20.4	+0.6	平年並み

6月の月平均水温は5月に比べ浜田、恵曇とも3.0 上昇しました。浜田、恵曇とも「平年並み」の水温経過となりました。



《 6月の漁況 》

【中型まき網漁業】

浜田港の中型まき網の総漁獲量はマアジ・カタクチイワシ主体に368トン、水揚金額は7,637万円でした。また、1統当たりの漁獲量は92トンで前年の146%、平年の49%と、極めて低調に推移した前年を上回ったものの平年を下回りました。水揚金額は1,909万円（前年比：31%減）と低調でした。恵曇ではカタクチイワシ、マアジを主体に総漁獲量508トン、水揚金額は3,826万円でした。1統当たりの漁獲量は127トン（前年比：86%）、水揚金額は956万円（前年比59%減）でした。浦郷ではマアジ、カタクチイワシ主体に総漁獲量891トン、水揚金額は9,298万円でした。1統当たりの漁獲量は178トン（前年比：17%減）、水揚金額は1,860万円（前年比：36%減）でした。

【イカ釣漁業】

浜田港に水揚げするイカ釣り船（5トン以上）によるイカ類の漁獲量は、スルメイカ・ケンサキイカを中心に42.4トン（前年比：24%）と極めて低調に推移しました。スルメイカの魚体は、20入り及び25入りが主体でした。一方、西郷のイカ釣り船（5トン以上）では、スルメイカを中心に44.7トンの漁獲（前年比：98%）で、ほぼ前年並みでした。

【バイかご漁業】

6月から始まった県西部および東部のバイかご漁業(7隻)の水揚げは53.7トン、3,203万円と、漁獲量は昨年を22%、水揚金額は15%下回りました。またエッチュウバイの水揚げは39.8トン、2,196万円と、昨年と比べて漁獲量は30%、水揚げ金額は24%下回りました。初漁期の漁獲量としては平成9年以来の低い水準で、平年の約25%減となっています。エビ類（モロトゲアカエビ、イバラモエビ）は3.5トン、637万円と前年に比べて漁獲量は6%下回りましたが、水揚金額は逆に15%上回っています。

【シイラまき網漁業】

仁摩・五十猛・和江・大田市各漁協の合計の水揚げは154トン、2,374万円と、漁獲量は昨年を7%上回り、水揚金額は逆に9%下回りました。6月としては量・金額ともに平年をやや上回る漁模様と言えます。漁獲量の96%がシイラでヒラマサはわずかに3%でした。昨年、一昨年に比べシイラの量は大幅に増え

ましたが、逆にヒラマサは大幅減となっています。その他の魚種としてはヨコワ(クロマグロ)、ブリ、ダルマ(メダイ)などが漁獲されています。

【定置網漁業】

県西部、東部ともトビウオ類(ホソトビウオ主体)が好調で、前年および前々年同期の2倍から4倍の漁獲となっています。また、ブリも比較的まとまって漁獲されています。しかし、例年6月の漁獲の主体となっているマアジの漁況は低調で、各地とも前年および前々年同期を大きく下回っています。また、前月まで好漁が続いた隠岐地区のマダイの漁況も低調となり、終了期を迎えたようです。

【釣・縄】

浜田、五十猛ともケンサキイカとアマダイの漁獲が増加しています。一方、前月、漁獲の中心であったブリの漁獲量は大幅に減少しました。五十猛では前月に引き続きメバル・カサゴ類の漁獲が好調で、前年および前々年同期を大きく上回る漁況が続いています。漁獲量全体は、浜田は過去2カ年の3割減、五十猛では1割増となっています。

漁獲統計

平成12年6月1日～30日

漁業種類	水揚港	延隻数・統数	主要魚種	1隻(統)1航海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	70	マアジ・カタクチイワシ	5.3ト	368ト
	恵曇	107	カタクチイワシ・マアジ	4.7ト	508ト
	浦郷	83	マアジ・カタクチイワシ	10.7ト	891ト
イカ釣り (5トン以上)	浜田	276	スルメイカ・ケンサキイカ	153Kg	42.4ト
	西郷	321	スルメイカ	139Kg	44.7ト
バイかご	大田市	33	エッチュウバイ	831Kg	27.4ト
	和江	10	エッチュウバイ	766Kg	7.7ト
	仁摩	18	エッチュウバイ	612kg	11.0ト
	平田市	13	エッチュウバイ	585Kg	7.6ト
シイラまき網	仁摩	8	シイラ・ヒラマサ	1,262kg	10.1ト
	五十猛	20	シイラ・ヒラマサ	945kg	18.9ト
	和江	51	シイラ・ヒラマサ	2,310kg	117.8ト
	大田	8	シイラ・ヒラマサ	925kg	7.4ト
定置網	浜田	77	トビウオ類・ブリ・ケンサキイカ	488kg	37.5ト
	恵曇	72	トビウオ類・マアジ・ケンサキイカ	283kg	20.4ト
	浦郷	24	ブリ・カワハギ類・マアジ	1,660kg	39.8ト
釣・縄	浜田	1,365	スルメイカ・ケンサキイカ・アマダイ	18kg	25.0ト
	五十猛	615	カサゴ類・スルメイカ・アマダイ	25kg	15.6ト

1隻(統)1航海当漁獲量は総漁獲量 / 延隻数・統数で算出しており四捨五入した値です。